

夢中熱中青春ライフ!



GAKKO

33

今回は英会話サークル「GAKKO」をご紹介します。毎年好評を博している英語劇などのユニークな活動で、もうご存じの人も多いかも知れませんが、代表の片岡真理子さんにお話を伺いました。

ナマの英語で

「習うより慣れる」

このサークルのそもそもの始まりは、中央公民館の市民セミナーでした。春と秋、年二回の英会話講座だったんですが、それだけで終わりにしたくないと、昭和六十一年に十二、三



昨年発表した「ジャパニーズマン in アメリカ」の打ち上げて (12月11日)

人でサークルを作りました。当時は高校の英語の先生に講師をお願いしてましたが、六十三年に市の教育委員会へ英語指導助手としてリン・ナワタさんが来て以来、リアン、マシュー、ジェニファーと代々の指導助手の方が講師をしてれています。今、サークルには高校生から五十代の人まで三十人ほどの会員がいますが、年齢に関係無く、ナマの英語に接して「習うより慣れる」で気楽にやっています。「GAKKO」いいというサークル名は、良い学校とかっこいい、そして漬物のガッコをもじったもので、名付け親はリンさんです。彼女はガッコが好物だったんですよ。

英語の楽しさ

今度は分ける側に

平成元年の秋にリンさんの提



8歳の女の子も。劇はもうベテランだとか

案で最初の英語劇を発表したんです。十五分ほどの寸劇が五つでしたけど、観客にうけたのでその気になったちゃって、毎年やるようになりました。劇の中だとみんな、間違えても物おじしないでしゃべれるみたいなんですよ。自然な表現、正しい発音、イントネーションの練習にも効果的なようです。劇の準備は大変ですけど、本番がうまくいって「良かった」と言われると気分は最高です。「なんだかよくわからなかったけど、おもしろかったよ」と毎年来てくれる子供もいるんですよ。これまで私たちが続けてこれたのは、リンさんが英語の楽しさを教えてくれたからだと思います。今度は私たちが受ける側から分ける側としての行動を、かたじけなく張らずにやっていきたいと思います。

福井発 → 大館着

前略

大館市民になりました

34

☆今回は水門町にお住まいの荒木健朗さんご一家です。
Q・ご家族は何人ですか?
妻と娘の三人です。娘は桂城小学校の一年生です。

Q・どちらから転入されましたか?
昨年の三月末に福井県福井市から来ました。

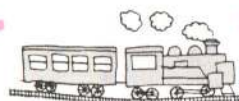
Q・大館の印象はいかがですか?
夜行列車で来たんですが、たまたま吹雪だったんですよ。駅前なんか寂しかったですし、すごいところへ来たかったかなと、その時はね(笑)。人柄的には、こちらの人は優しいなと感じています。ただ、言いたいことをなかなか外に出さない人が多いような気がします。

Q・言葉や食べ物はどうですか?
私は弘前にもいたことがありますから大丈夫なんです。妻には最初のうち通訳してましたが、もう九割方大丈夫です。食べ物、魚が安くておいしいですね。どっちかと言えば山の中なのに種類も多いです。殻が付いているホタテ貝をスーパーで売ってるのも珍しかったです。

娘はみそつけたんぽがお気に入りです。

Q・大館にどんなことを望みますか?
バイパスなど道路整備が

早速に必要だと思っています。それに、温泉や公園などいいところがいっぱいあるのに、トータルに生かしきれない感じがします。十和田湖や八幡平への入り口でもありますが、もっとうまく活用して大館にとまっくもらえようと思ったらどうでしょう。



右から、奥さんの直子さん、長女の理絵ちゃんです